

日インドネシアコールドチェーン物流ワークショップ 議事概要

(各講演の主な内容)

- 流通科学大学の森名誉教授より、コールドチェーンの必要性や需要拡大見込みの背景等について説明があり、特にコールドチェーン物流関連施設や物流インフラの整備が重要であり、これによって流通段階での食品ロス低減に寄与すると強調された。また、標準化や規格の認証制度は、コールドチェーンの発展と拡大に重要な役割を果たすほか、事業者のサービス品質の可視化が可能となり、事業者のサービス品質の向上に大きく貢献するとの意見が示された。
- 国土交通省より、コールドチェーン物流政策や標準化の意義、関連規格の概要、インドネシア国内における実証輸送結果等について紹介するとともに、日本提案により ISO に設置された技術委員会 TC315 (コールドチェーン物流) において、JSA-S1004 をベースとした国際規格の発行に向けた議論の状況について紹介した。
- インドネシア運輸省より、コールドチェーンを含めた物流コストの低減及び効率化を図るため、官民連携によるデジタルプラットフォーム構築に関する説明があった。
- インドネシア海洋水産省より、島嶼国であるインドネシアの水産品の物流需要に対応するためには、コールドチェーン物流サービスや標準化が重要であるとの認識が示されたほか、漁業関係者に対し、冷凍冷蔵倉庫の建設等に関する支援を行っている旨の説明があった。
- インドネシアコールドチェーン協会より、インドネシア国内のコールドチェーン物流需要に対する現状のキャパシティについて説明があったほか、国家規格策定のための技術委員会 (NTC55-02) において、コールドチェーン関連の国家規格策定を推進していく旨の説明があった。
- 日本海事協会より、コールドチェーン物流サービス規格の重要性と JSA-S1004 の要求事項及び認証機関が認証審査を行う際のポイントについて説明があり、規格の認証取得を通して、物流事業者の高品質なコールドチェーン物流サービスを可視化することで、競争力の強化に繋がるとの認識が示された。
- 川西倉庫より、食品の品質維持のためコールドチェーンの必要性や意義について説明があった。また、自社の冷凍冷蔵倉庫に設置されているコールドチェーンの維持に必要な設備が紹介されたほか、最新の物流機器の導入による倉庫の効率化についても言及があった。
- MGM Bosco Logistics より、自社のコールドチェーン物流施設や設備等について説明があったほか、独自のポータルサイトにおいて、顧客が在庫情報や輸送中の貨物の温度、トラックの位置を確認することができる等、デジタル化への取組についても言及があった。
- ヤマト運輸から、ISO23412 の発行に至る経緯や同規格の概要、意義等の説明があったほか、サプライチェーン全体にコールドチェーンの重要性を浸透させるためには、荷主や生産者の理解も必要であることから、食品安全マネジメントに関する規格である FSSC22000 の任意追加要求事項に ISO23412 が 2021 年 4 月に採択されたとの紹介があった。また、同社と欧州企業が連携して構築したビジネスコンソーシアム「FRESH PASS」について紹介された。
- TASC0 より、2022 年 7 月に同社傘下の TYGC 社がマレーシアにおいて JSA-S1004 の認証を取得した経緯や同規格の意義等について説明があった。同規格は食品安全及び衛生管理

の向上や、荷主からの厳しい要求にも十分に対応可能な規格であり、業界内の競争力の強化にも寄与するとの認識が示された。また今後の展望として、JSA-S1004 を有する企業であることを顧客に対して情宣し、営業拡販に繋げることや、同規格に準拠した保管及び輸送で管理された商品であること等について消費者に対し訴求していく等の意向が示された。